

日田条里飛矢地区

2003年

日 田 市 教 育 委 員 会

序 文

日田条里飛矢地区は大波羅丘陵から西に延びる沖積地の上に位置します。遺跡周辺には市の有形文化財に指定されている大原八幡宮や県の史跡に指定されている薬師堂山古墳など数多くの文化財が存在しています。

今回調査を行った日田条里飛矢地区では古墳時代の住居や溝、奈良時代の建物などが見つかり、これまでに行われた発掘調査と合わせて市街地での調査例も増え、その様子が徐々にではありますが、明らかになりつつあります。

今回、発行いたします本書が地域の歴史を理解する上での一助となり、活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成にわたってご協力いただきました関係者の皆さま方に心よりお礼申し上げます。

平成15年2月

日田市教育委員会

教育長 後 藤 元 晴

例　　言

1. 本書はパーエクトリバティ教団より委託を受けたパーエクトリバティ教団日田教会新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査にあたってはパーエクトリバティ教団日田教会や本村介一級建築士事務所の方々のご協力をいたいたいた。
3. 発掘調査での遺構写真および遺構実測は行時・若杉が行い、遺物実測・製図については若杉が行った。
4. 遺物写真は雅金画有限公司・長谷川正美氏に撮影委託したものを使用した。
5. 出土遺物や図面類はすべて日田市埋蔵文化財センターに保管している。
6. 本書の執筆は第Ⅰ章・第Ⅲ章を若杉、第Ⅱ章を行時、第Ⅳ章を行時・若杉が行い、全体の編集は若杉が行つた。

本　文　目　次

I はじめに	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の内容	3
IVまとめ	8

挿　図　目　次

第1図 調査区位置図 (1/5,000)	第5図 構実測図 (1/100)
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	第6図 土坑実測図 (1/30)
第3図 遺構配置図 (1/100)	第7図 出土遺物実測図 (1) (1/3・1/4)
第4図 竪穴住居跡・掘立柱建物実測図 (1/60)	第8図 出土遺物実測図 (2) (1/3・1/4)

図　版　目　次

写真1 調査作業風景	図版2 2段目 (右) 1号掘立柱建物
図版1 上 調査区遠景 (南西より)	3段目 (左) 1号土坑
下 調査区全景 (真上より)	(右) 2号土坑
図版2 1段目 (左) 1号竪穴住居跡	4段目 (左) 1号溝
(右) 3号竪穴住居跡	(右) 1号溝土層
2段目 (左) 3号竪穴住居跡	5段目 (右) 2号溝
遺物出土状況	図版3 出土遺物

表　　目　　次

第1表 出土土器観察表

I はじめに

1. 調査に至る経過

平成13年12月27日付けでパーカトリバティ教団より日田市大字田島字飛矢259番地に教会建設を行う計画があることから、市教育委員会に事前の照会文書が提出された。当該事業予定地は日田条里遺跡として周知の埋蔵文化財保有地であることから、試掘調査を行うことになった。試掘調査は平成14年2月9日に行い、その結果、弥生時代の土坑や古代の溝などが検出され、遺構の存在が確認された。その後の事業者との協議の中で遺構面より深く掘削する工事予定区域北側の建物部分についてのみ発掘調査を行い、盛土を行う南側の駐車場部分については調査を行わないことで、合意に達した。

その後、スケジュール調整を行い、平成14年4月15日に委託契約書を締結し、同年4月17日～5月10日までの期間に発掘調査を行い、平成15年3月15日までに発掘調査報告書を作成することとなった。

2. 調査の経過

発掘調査では事前協議の内容を受けて、機械により建物部分の掘り下げを行い、延べ1日で地山面までの検出を行った。その後、作業員により遺構の精査を行い4月19日にはその作業を終了した。統いて遺構の掘り下げを順次行い、併行して全体図の作成、個別遺構の写真撮影、実測を行った。遺構の掘り下げを終了後、5月9日に空中写真撮影を行った。その後、調査区が住宅地の中にあることから、安全の確保のために遺構部分についてのみ埋め戻しを行い、機材を撤収し、5月10日に調査を終了した。

整理作業については平成14年11月5日から12月27日の間、行った。

3. 調査組織の構成

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 日田市教育長 後藤元晴

調査事務 日田市教育委員会文化課課長 後藤清

同 文化財管理係長兼
埋蔵文化財係長 田中伸幸

同 埋蔵文化財係主任 園田恭一郎
同 主事補 酒井恵

調査員 日田市教育委員会文化課
埋蔵文化財係 主査 土居和幸

同 主任 行時桂子
(調査担当)

同 主事 若杉竜太
(試掘・調査担当)

同 主事 渡邊隆行

調査作業員 一ノ宮嘉蔵 後藤孝市 財津利枝
財津由太 高倉美利 田中昇

平原知義 松岡初次

整理作業員 石田紀代子 伊藤一美



第1図 遺跡位置図 (1/5,000)

II 遺跡の立地と環境（第2図）

日田条里飛矢地区は日田盆地東部、三隈川（筑後川）右岸の標高約90mの沖積地にある。東方には市指定有形文化財の大原八幡宮を構する大波羅丘陵があり、それから三隈川に向かって伸びる麓に本遺跡は立地している。

本遺跡のある一帯は『豊後國風土記』によれば古代日田郡五郷のひとつ「飯綱郷」に属していたと考えられている。「飯綱郷」は盆地東部の三隈川右岸流域一帯に比定され、古墳時代後期の豪族日下部氏の拠点であったと伝えられる。古くから文献に登場するだけあり、本遺跡の周辺では遺跡が多く確認されている。

大波羅丘陵の北斜面にある赤追遺跡では弥生～古代の集落や土坑群、古墳時代中頃の墓群が確認されている。大波羅丘陵と本遺跡の間に位置する大波羅遺跡では弥生～古代の溝や古代の掘立柱建物が調査され、溝からは「山」銘の墨書き土器が出土しており、官衙・寺院関連施設が存在した可能性が考えられる。大波羅丘陵南斜面には古墳時代中期の円筒埴輪が出土した薬師堂山古墳など、数基の古墳が存在する。丘陵の南側に広がる沖積地には本遺跡と同様な立地条件で弥生～中世の集落が確認された日田条里大原地区や会所宮遺跡があり、とくに後者の弥生時代中期の集落は沖積地に立地する数少ない例のひとつである。また丘陵南側にある会所山を挟んで南には2基の裝飾古墳を含み日下部氏の奥津城と伝えられる法恩寺山古墳群など、おもに弥生時代から古代にかけての遺跡が広がる。一方本遺跡の北側では慈眼山瀬戸口遺跡で古代～中世の井戸や溝等の遺構が調査され、古代の井戸からは「門」「林」等の墨書き土器が、中世の遺構からは大量の輸入陶磁器や十一面觀音菩薩像が出土している。またそれに近接する上ノ馬場遺跡では中世の溝・土坑・柱穴群と多くの遺物が出土している。

以上のことから本遺跡のある地域は、古代までには「飯綱郷」の中心的な場所のひとつであったと考えられるが、古代末～中世になると、この頃台頭してきた大蔵姓日田氏の拠点とされる慈眼山付近に中心が移動したことを読みとれる。

註(1) 行時志郎他「赤追遺跡」日田市埋蔵文化財年報

平成5～8年度 日田市教育委員会 1995～1998

註(2) 渡邊隆行編「大波羅遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書 第29集 日田市教育委員会 2001

註(3) 発掘調査は行われていないが、日田市教育委員会が測量を実施している。

註(4) 若杉竜太「日田条里大原地区1次」「日田市埋蔵文化財年報」平成11年度 日田市教育委員会 2001

註(5) 土居和幸他編「会所宮遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書 第11集 日田市教育委員会 1996

註(6) 賀川光夫編「法恩寺山古墳」日田市教育委員会 1959

註(7) 古本嘉弘編「慈眼山瀬戸口遺跡」大分県教育委員会 1992

註(8) 行時志郎編「上ノ馬場遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書 第23集 日田市教育委員会 2000

1：大蔵古城跡 2：慈眼山瀬戸口遺跡 3：上ノ馬場遺跡

4：赤追遺跡 5：大波羅遺跡 6：大原八幡宮

7：日田条里飛矢地区 8：薬師堂山古墳 9：丸尾神社古墳

10：丸尾古墳 11：日田条里大原地区 12：会所宮遺跡

13：会所山道路 14：法恩寺山古墳群



第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

III 調査の内容

1. 調査の概要 (第3図 図版1)

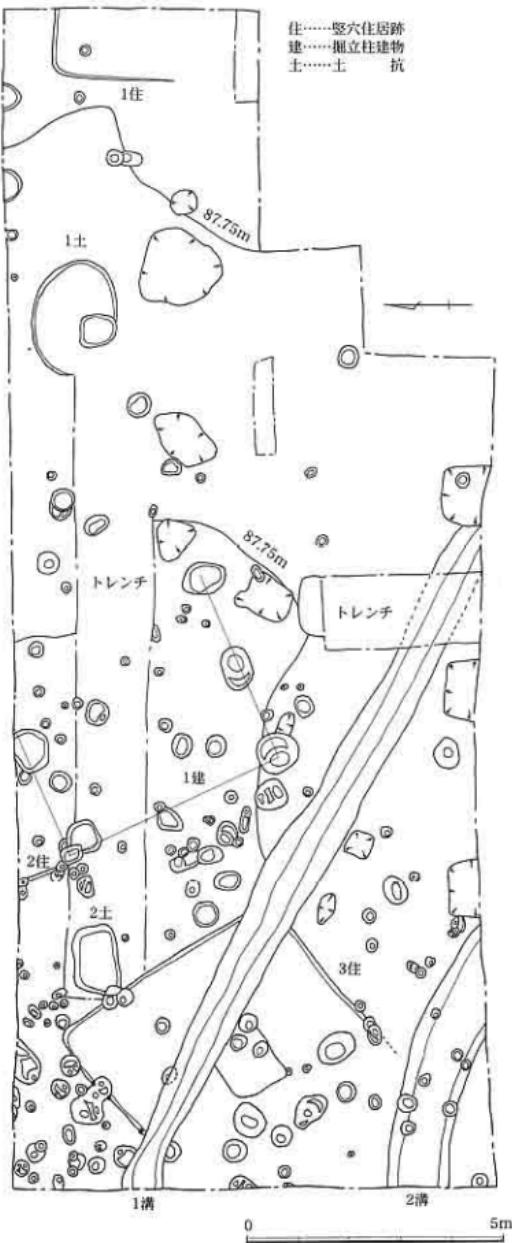
調査区は日田盆地東側にある大波羅丘陵から派生した沖積地上に位置し、標高は約87~88mではほぼ平坦な地形となっている。地山は粘性の弱い暗茶褐色土で地山までの深さは現地表面から約60cmを測る。

調査では弥生時代前期末~中期初頭の土器や遺構が試掘調査で確認されたことから、当該期の遺構が検出されることが予想されたが、検出されたのは古墳時代後期の竪穴住居跡や7世紀中頃の溝、8世紀代の掘立柱建物であった。これは今回調査対象とした範囲が遺構面が削削される建物建設部分に限り、試掘調査でトレーニングを設定した部分には及ばなかったことによると考えられ、調査区外には弥生時代の遺構の存在が想定される。最終的には竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝2条が確認された。

2. 遺構と遺物

1号竪穴住居跡 (第4図 図版2)

調査区の東端で検出されたが、南側はすでに削平されており、住居跡の東側は調査区外へ広がり、平面形は方形、もしくは長方形と考えられる。規模は東西約1.8m+α、南北約2.2m+α、深さ約10cmである。住居跡内には柱穴が1基検出された。その検出位置から考えれば4本柱の可能性が高いが、南側にこれに対応する柱穴が検出されなかつたことから、この柱穴が主柱穴になる可能性は低い。また、壁周溝は確認されなかつた。遺物についても出



第3図 遺構配置図 (1/100)

土しなかった。

2号竪穴住居跡（第4図）

調査区の北西側で検出された。そのほとんどが削平を受けており、壁の一部しか確認できなかつた。造構面から床面までの深さは約20cmである。主柱穴ならびに壁周溝は確認できなかつた。遺物は土師器甕や小甕などが出土している。

3号竪穴住居跡（第4図 図版2）

調査区の西側で検出され、1号溝に切られている。平面形は長方形を呈し、西側は調査区外へ広がる。規模は約4.9m×約5m+αで造構面から床面までの深さは約25cmである。また主柱穴は4本で、床面からの深さは約30~40cmである。中央に炉が検出されなかつたことからカマドを付設していたと考えられるが、確認することができず、調査区外へ広がる西側の壁に備えられていたと思われる。

遺物は土師器甕や須恵器杯蓋などが出土している。

1号掘立柱建物（第4図 図版2）

調査区のはば中央で検出された。柱穴の配置から1間×2間の建物と考えられ、建物の北東側は調査区外へ広がる。柱間の心々距離は桁行約1.9m~2.3m、梁行約4.5mである。遺物はP2より土師器椀、土師器甕の口縁部などが出土している。

1号溝（第5図 図版2）

調査区の南東側から北西側にかけて検出された。調査区内での現存長は約14mである。最大幅は約0.9m、深さは約0.6mである。溝の断面は逆台形を呈し、その底面は北西側から南東側にかけて緩やかに傾斜している。溝の埋土は灰褐色系でやや砂質である。埋土の状況から水が恒常に流れていたとは考えにくいか、溝底面に傾斜がみられることから一時的な水の流れはあった可能性がある。また溝の埋土より須恵器蓋、土師器椀などが出土している。

2号溝（第5図 図版2）

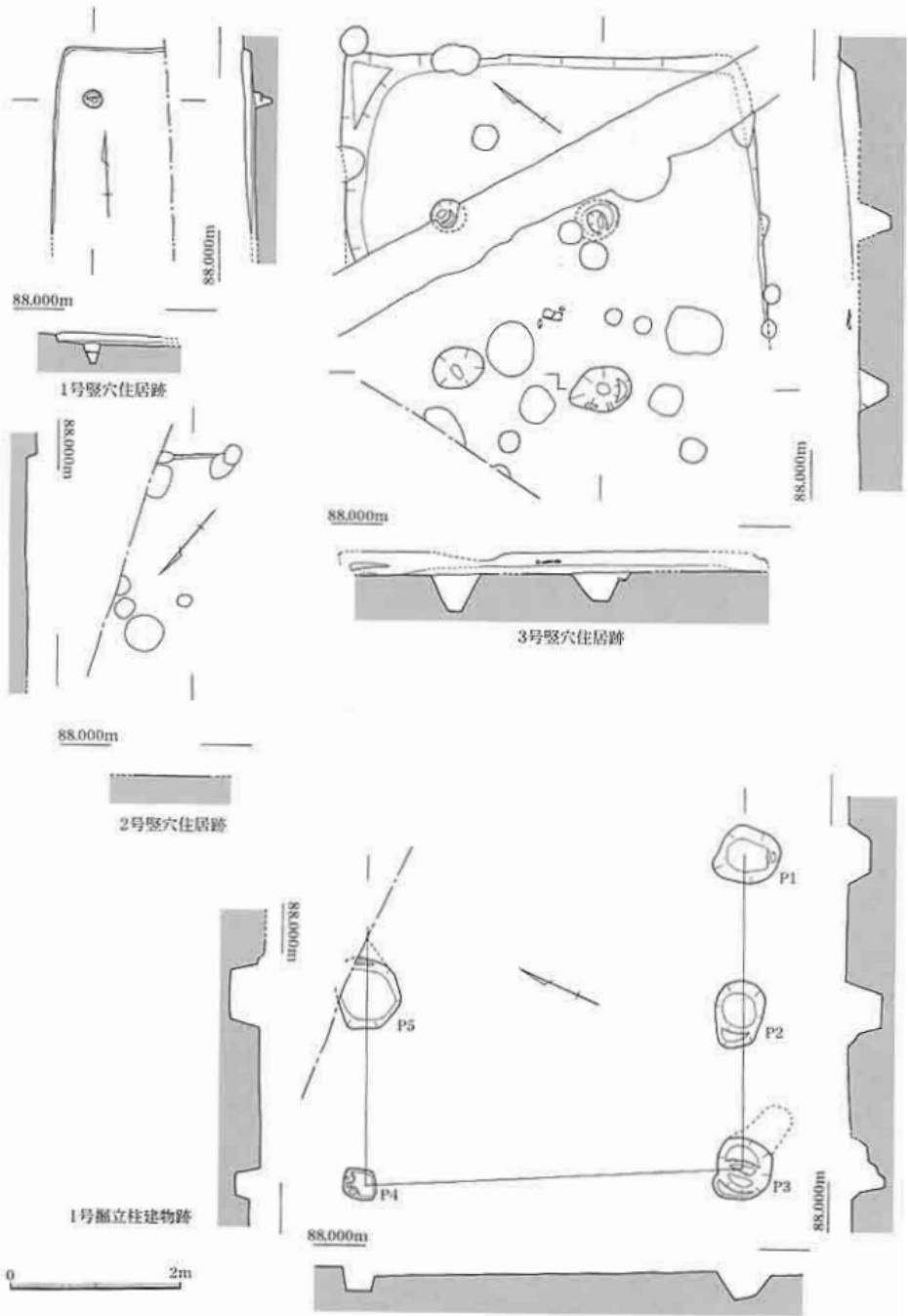
調査区の南西側隅で1号溝とほぼ平行するように検出された。調査区内での現存長は約5mである。最大幅は約1.3m、深さは約0.2mである。溝の断面は逆台形を呈し、その底面はほぼ平坦である。遺物は出土しなかつた。

1号土坑（第6図 図版2）

調査区の東側、1号竪穴住居跡の西側で検出された。平面形はほぼ円形を呈し、規模は径約2mで深さは上面が大きく削平されていると考えられ、約10cmと浅い。遺物は土師器の小破片が数点出土しているが、時期の特定は困難である。



写真1 作業風景



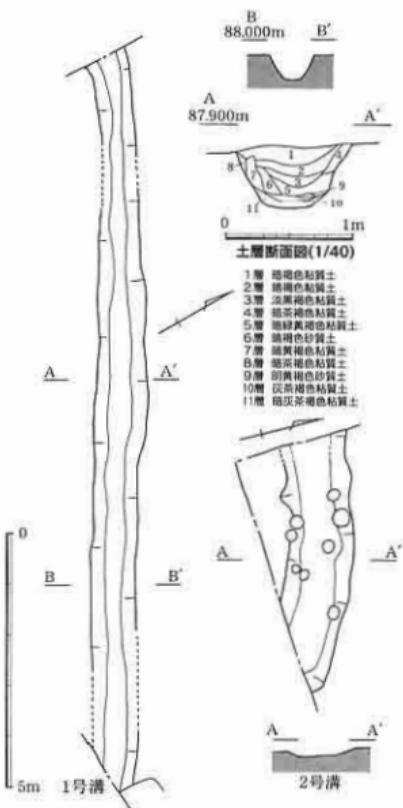
第4図 竪穴住居跡・掘立柱建物実測図 (1/60)

2号土坑（第6図 図版2）

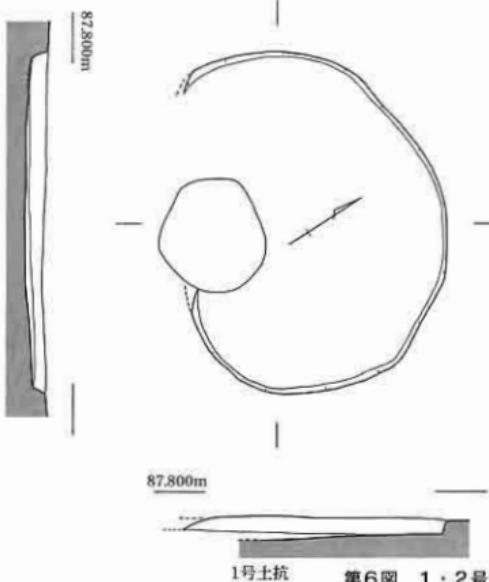
調査区の西側、3号竪穴住居跡の北東側で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、ピットにより切られているが、規模は長軸約1.3m、短軸約0.9m、深さ約0.3mである。遺物は須恵器蓋や土師器小破片などが出土している。

出土遺物（第7図 図版3）

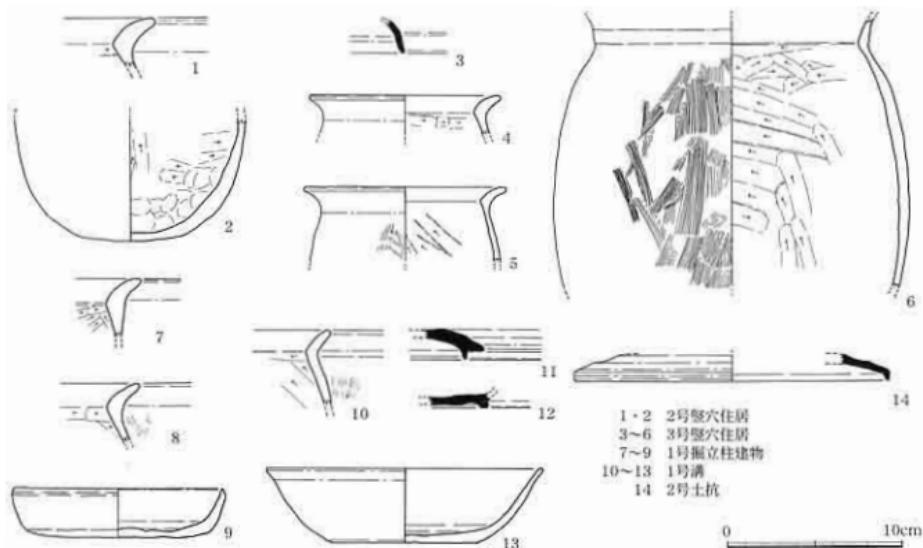
1・2は2号竪穴住居跡出土である。1は土師器甕で色調は淡褐色を呈し、口縁部内外面にはナデ、また胴部内面にケズリを施す。2は土師器小甕である。色調は外面が黒褐色、内面が淡黒褐色を呈する。内面はケズリが施され、底面付近は指押さえが見られる。3～6は3号竪穴住居跡出土である。3は土師器甕である。色調は暗赤褐色を呈する。口縁部には内外面ともナデが施され、胴部内面にはケズリが施されている。4は土師器甕で色調は外面が暗赤褐色、内面が淡黒褐色を呈する。調整は口縁部内外面ともにナデを施し、胴部外縁にハケ、内面にはケズリが見られる。5も土師器甕で色調は外面が淡赤褐色、内面が明茶褐色を呈する。胴部外縁は全体にわたり綴方向のハケが施されており、口縁部から頸部にかけてナデが見られる。内面は外面同様に口縁部から頸部にかけてナデが見られ、胴部はケ



第5図 1・2号溝実測図 (1/100)



第6図 1・2号土坑実測図 (1/30)



第7図 出土遺物実測図 (1) (3,9,11~14,1/3・1,2,4~8,10,1/4)

ズリが施されている。6は須恵器の杯蓋である。天井部と口縁部の境付近から口唇部にかけて残存している。色調は灰白色を呈する。内面・外面とともに回転ナデが見られ、天井部にかけては回転ヘラケズリが施されている。

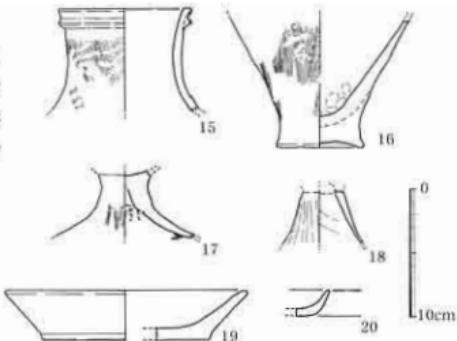
7~10は1号掘立柱建物より出土した。7は土師器甕でP1より出土した。色調は赤褐色を呈し、腹部内面にケズリが施され、口縁部内外面にナデ、胴部外面はハケの後、ナデが施されている。8は土師器甕でP4より出土した。色調は淡茶褐色を呈し、外面にはハケ、内面にはケズリが施されている。9は土師器杯でP1より出土した。色調は淡赤褐色を呈する。内外面全体にわたってナデが施されている。

10~13は1号溝出土である。10は土師器甕である。色調は淡赤褐色を呈し、外面にはナデ・ハケ、内面にはナデ・ケズリを施す。11は須恵器の蓋である。青灰色を呈し、外面は回転ヘラケズリ、内面には回転ナデを施している。12は須恵器の高台付杯である。色調は灰白色を呈し、底面には回転ヘラケズリ、内底面には回転ナデを施す。高台は底面の最も外側に貼り付けられている。13は土師器甕である。色調は暗赤褐色を呈し、外底面以外には強いナデが施されている。外底面は回転ヘラギリの痕が見られる。14は須恵器蓋で2号土坑より出土した。色調は灰白色を呈する。外面は天井部にかけて回転ヘラケズリ、内面から口唇部にかけては回転ナデが施されている。口唇部はつまみ出しだある。

その他の出土遺物 (第8図 図版3)

15は弥生土器の壺口縁部である。試掘で出土した。口縁部に断面三角形の突帯を貼り付ける。色調は黄褐色を呈し、外面には斜め方向のハケを施す。16は弥生土器の甕底部である。色調は淡赤褐色、黒褐色を呈し、外面にはハケ、内面には指押さえを施す。底部はやや上げ底気味である。17は弥生土器の高杯である。P1より出土した。色調暗黄褐色を呈し、外面には斜め方向のハケがわずかに残る。

18は土師器の高杯である。色調は淡赤褐色、暗褐色を呈し、外面にはケズリを施す。内面にはわずかにシボリ痕が見られる。19は土師質土器碗である。P2より出土した。色調は淡茶褐色を呈し、外面にはナデ、内面には回転ナデが施されている。20は土師質土器碗である。包含層一括出土である。色調は淡赤褐色を呈し、調整はナデが施されている。



第8図 出土遺物実測図(2) (19.20.1/3・15~18.1/4)

IVまとめ

今回の調査では竪穴住居跡3軒、掘立柱建物1棟、溝2条、土坑2基が検出された。

竪穴住居跡3軒のうち、2号竪穴住居跡については肥厚した頸部を持つ土師器壺の特徴から8世紀代と考えることができる。3号竪穴住居跡出土の須恵器杯蓋（第7図3）から陶邑編年のMT85の時期と考えられる。また、土師器壺については後世の流れ込みにより新しい時期のもの（第7図4・5）もあるが、第7図6については口縁部の立ち上がりの角度、胴部の広がり方から重藤氏の編年の6期の時期が与えられる。須恵器杯蓋が若干新しい時期のものと考えられるが6世紀中頃を中心とした時期のものと考えて差し支えないだろう。1号竪穴住居跡については削平が激しく、また遺物が出土しなかったことから時期の特定は困難である。

溝については1号溝からは遺物が出土している。須恵器蓋はかえりの位置から7世紀前半～中頃の時期が考えられる。土師器杯については口縁端部をわずかに外側に外反させるなど、特徴から同様の時期が与えられよう。2号溝については遺物が出土してなく、時期は不明であるが、切り合い関係や埋土の状況から古代の遺構と考えられる。

土坑については1号土坑の時期は不明である。2号土坑については出土した須恵器蓋から8世紀中頃～後半のものと考えられる。また掘立柱建物の時期については、柱穴から出土した土師器から8世紀後半と考えられる。

ここで、本遺跡と周辺の遺跡の状況をみていく。まず、弥生時代の遺構については1号竪穴住居跡がそれにあたる可能性がある。前述のとおり、遺物が出土していないためはっきりしたことは不明であるが、試掘調査で出土した甌底部から中期前半代の集落が存在していたことが窺える。この時期の集落は会所宮遺跡でも確認されており、丘陵西側の沖積地一帯に当該期の集落が展開していた可能性が考えられる。

次に6世紀後半の時期と考えられる竪穴住居跡であるが、周辺の遺跡から明確にこの時期と判断できるものは確認されていない。ただし、日田条里大原地区の1次調査では当該期の杯身が出土しており、この時期の集落が存在していたことが窺える。また会所宮遺跡では古墳時代後期の溝が発見されている。このような状況から古墳時代後期の集落は大波羅丘陵の南東側に集落が展開していたと考えられる。また1号溝については、これと同時期の遺構の存在が確認されていないことからその性格については不明であるが、溝に水が流れていた状況が明確に見受けられないことから区画の意味合いをもつたものと考えられる。さらに8世紀後半頃の土器も出土していることから比較的長い存続期間が考えられる。

8世紀代の遺構についてであるが、この時期は大波羅遺跡で溝、大量の須恵器が出土した包含層が確認されている。8世紀後半を中心にして8世紀全般にわたる遺物が見られ、遺跡背後の丘陵からの流れ込みと考えられ、これら大量の遺物を廻らせる集落の存在が想定されている。本遺跡では遺構密度・遺物数は少ないが、小規模ながらも集落が存在したことがわかる。

今回は約200m²という狭い面積の調査であったため、遺跡の広がりや時代幅など全容の解明にいたることはできなかった。しかし、周辺地域を含めて調査件数も徐々に増加してきており、少しづつ地域の様相が明らかになってきている。今後の調査とさらなる詳細な検討により、この地域の様相がより明らかになってこよう。

- 註（1）田邊昭三『陶邑古窯跡群』研究論集第10号 平安学園考古クラブ 1966 ほか
 註（2）重藤輝行『仁右衛門郷遺跡を中心とした浮羽瀬の古墳時代土師器編』吉田東明編『仁右衛門郷遺跡』I
 浮羽バイパス開発埋蔵文化財調査報告第12集 福岡県教育委員会 2000
 重藤輝行『福岡県における古墳時代中期～後期の土師器』 第5回九州前方後円墳研究会実行委員会事務局編『古墳時代中～後期の土師器～その編年と地域性～』発表要旨資料 2000
 註（3）土居和幸他編『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集 日田市教育委員会 1996
 註（4）若杉竜太『日田条里大原地区1次』「同2次」同編『平成11年度（1999年度）日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2001
 註（5）渡邊隆行他編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001

追記

調査の終了後、亡くなられました高倉美利さんご冥福を心よりお祈り申し上げます。

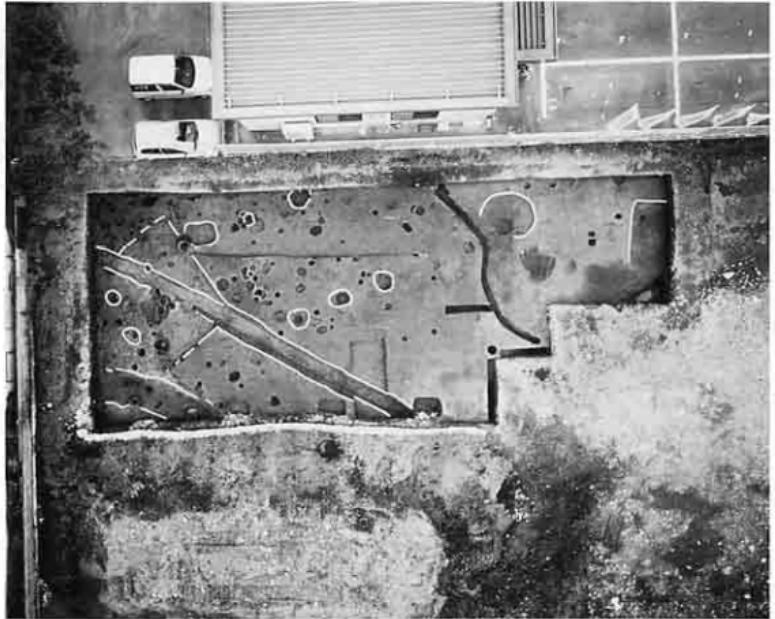
第1表 出土土器観察表

遺構名	神奈番号	種別	固相	法長(cm) ()内は復元径・残存高			調査		胎土	焼成	色調
				口径	底径	器高	外面	内面			
2号堅穴住居跡	第7回1	土師器	無	-	-	(3.9)	ナデ	ケズリ	AC	良好	灰褐色
2号堅穴住居跡	第7回2	土師器	小皿	-	-	(7.0)	ナデ?	指押さえ ケズリ	AE	良好	黒褐色 淡黒褐色
3号堅穴住居跡	第7回3	土師器	瓶	(14.6)	-	(3.0)	ナデ	ケズリ	ACEF	良好	暗赤褐色
3号堅穴住居跡	第7回4	土師器	瓶	(15.6)	-	(5.8)	ナデ ハケ	ケズリ	BC	良好	暗赤褐色 淡黒褐色
3号堅穴住居跡	第7回5	土師器	瓶	-	-	-	ナデ ハケ	ケズリ	ACE	良好	暗赤褐色 明茶褐色
3号堅穴住居跡	第7回6	須恵器	杯蓋	-	-	(1.8)	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	CE	良好	灰白色
1号掘立柱建物	第7回7	土師器	瓶	-	-	(4.4)	ナデ ハケ	ケズリ	BCE	良好	赤褐色
1号掘立柱建物	第7回8	土師器	瓶	-	-	(4.6)	ナデ ハケ	ケズリ	ABCDE	良好	淡茶褐色
1号掘立柱建物	第7回9	土師器	杯	(10.0)	6.6	2.8	ナデ	ナデ	AEE	良好	淡赤褐色
1号溝	第7回10	土師器	瓶	-	-	(5.8)	ナデ ハケ	ケズリ	ACE	良好	灰褐色
1号溝	第7回11	須恵器	杯蓋	-	-	(1.7)	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	AE	良好	青灰色
1号溝	第7回12	須恵器	杯	-	-	(0.7)	回転ナデ	回転ナデ	CE	良好	灰白色
1号溝	第7回13	土師器	瓶	(15.6)	(8.4)	4.2	ナデ	ナデ	ACE	良好	暗赤褐色
2号土塁	第7回14	須恵器	蓋	(18.0)	-	(1.5)	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	AE	良好	青灰色
試掘3トレンチ	第8回15	弥生土器	壺	(10.2)	-	(8.1)	ナデ ハケ	ナデ	BCE	良好	黄褐色
試掘3トレンチ	第8回16	弥生土器	甕	-	(6.8)	(10.0)	ナデ	指押さえ	AGE	良好	淡赤褐色 黒褐色
P1	第8回17	土師器	高杯	-	-	(4.2)	ケズリ	ナデ	ACE	良好	暗赤褐色 淡赤褐色
一括	第8回18	弥生土器	高杯	-	-	(5.3)	ナデ	ハケ	ACEF	良好	暗黃褐色
P2	第8回19	土師質土器	小皿	-	-	(1.5)	ナデ	回転ナデ	ABC	良好	淡茶褐色
一括	第8回20	土師質土器	碗	(19.0)	(9.6)	(2.9)	ナデ	ナデ	ACE	良好	淡赤褐色

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黑色粒子 G雲母 H砂粒

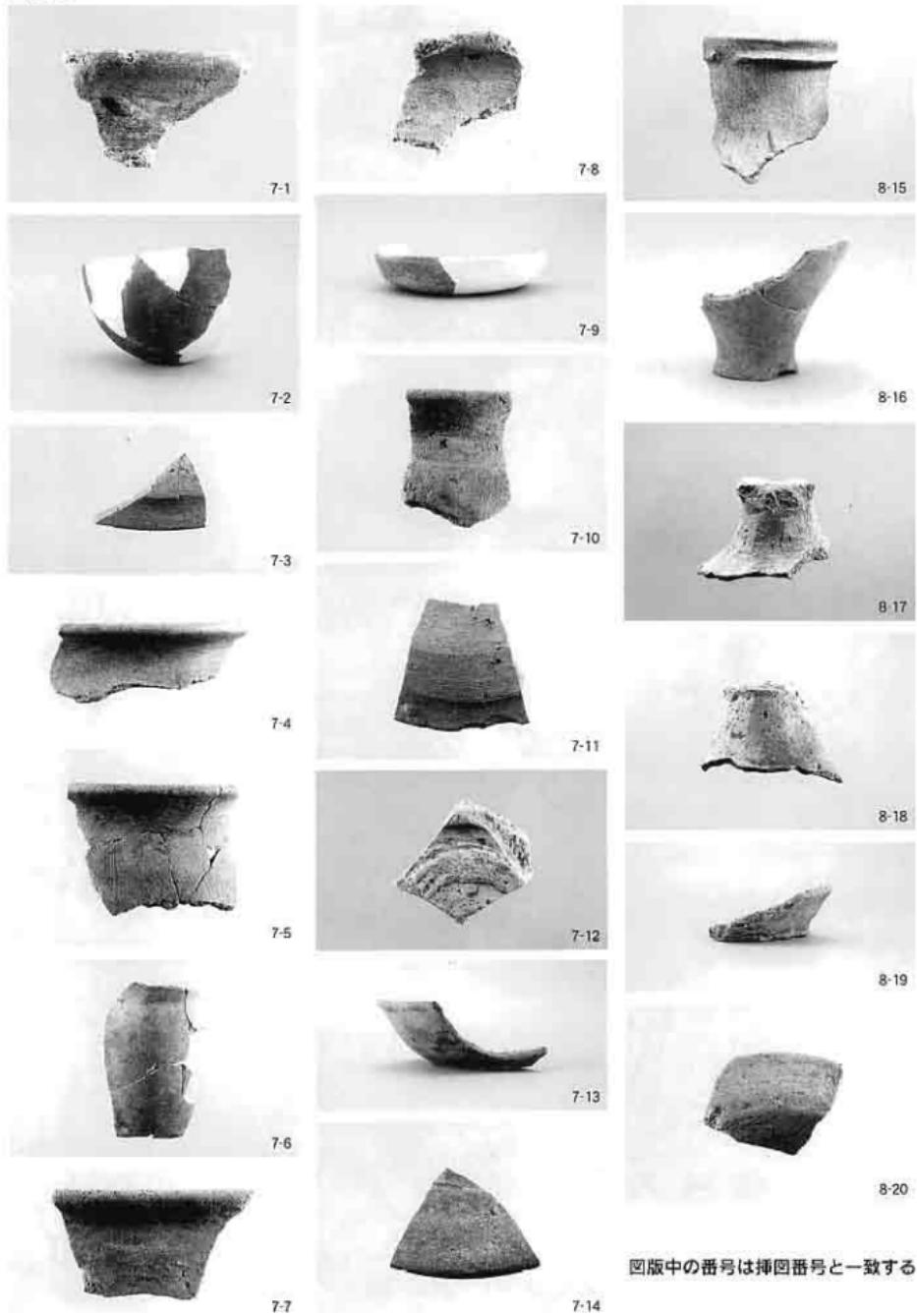


調査区遠景（南西より）



調査区全景（真上より）

図版3





1段目 (左) 1号竪穴住居跡 (右) 3号竪穴住居跡
2段目 (左) 3号竪穴住居跡 (右) 1号掘立柱建物
遺物出土状況

3段目 (左) 1号土坑 (右) 2号土坑
4段目 (左) 1号溝 (右) 1号溝土層
5段目 (右) 2号溝

報告書抄録

ふりがな	ひたじょうりとびやちく
書名	日田条里飛矢地区
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	40
編著者名	若杉竜太・行時桂子
編集機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2003年2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
日田条里飛矢地区	大分県日田市 大字田島字飛矢259	44204-6		33度19分	130度57分	20020417 ~20020513	183m ²	教会建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日田条里飛矢地区	集落	弥生時代 古墳時代 古代	竪穴住居跡、溝 掘立柱建物、土坑	弥生土器 須恵器、土師器 須恵器、土師器	

日田条里飛矢地区

日田市埋蔵文化財調査報告書

第40集

平成15年2月28日

発行 日田市教育委員会

大分県日田市田島2-6-1

印刷 尾花印刷有限会社

大分県日田市田島本町8-8